

2023年5月31日

九州・沖縄地域協議会 御中

公益財団法人 国際人材協力機構

技能実習制度及び地域協議会に関する意見提出

当機構は、監理団体、実習実施者に対して、技能実習生の受入れの相談、申請書類の書き方の助言等、総合的な支援を行っている公益法人です。当機構が各種支援を行う中で、技能実習制度及び地域協議会構成員各位に対する各種意見・要望が監理団体等から寄せられておりますので、それらを踏まえ、当機構の意見として提出します。

1. 外国人技能実習機構（OTIT）関連

(1) 受検支援に関して

受検手続支援サイトに受検情報を入力するが、別途試験実施機関に対しても受検申込書を作成する必要があるため、二度手間となるという声があるため、手続きの簡素化・改善をお願いしたい。

(2) 実習先変更支援に関して

実習先変更支援サイトについて、「フリーズする」、「エラーが表示される」といった声が寄せられている。外国人技能実習機構から「対処方法」がホームページにアナウンスされているが、今後も募集情報等が増加することが予想されるので、根本的な改善をお願いしたい。

(3) その他制度運営に関して

ホームページに掲載の送出国機関リストについて、タイ等は日本国内の連絡先項目（担当者名、住所、電話、メール）が掲載されているが、スリランカとブータンのリストについては日本国内の連絡先項目についての項目がない（掲載されていない）ので、項目を設けて情報を提供いただきたい（両国の送出国機関が日本国内の連絡先を設置していないということであれば、何らかの形でない旨表示するようお願いしたい）。

2. 法務省関連

- (1) 技能実習生の妊娠・出産に伴う技能実習生本人や子どもの在留資格に関して
外国人の妊娠・出産が社会的に大きな論点になっている中で、国内で出産を選択した技能実習生本人や生まれた子どもの在留資格がどのように扱われるのか、行政から十分な案内がないという声が寄せられている。このため、外国人が十分理解できるように整理して周知していただくようお願いしたい。

3. 厚生労働省関連

(1) 技能検定等の受検に関して

技能検定等の受検に関して、監理団体等から実習現場で困難を来しているとして、次のような声が寄せられている。

こうした状況を踏まえ、技能実習生の受検機会拡大等のため、各試験実施機関の実態にも配意しつつ、行政として技能検定試験・技能実習評価試験の体制構築をお願いしたい。

- ① 技能検定委員等の確保について、特に随時2級において自前での手配に苦慮するなど、困難を来している（左官職種、ハム・ソーセージ・ベーコン製造職種、婦人子供服製造職種、プラスチック成形職種等）。
- ② 受検場所の確保について、技能検定職種の場合自県では随時2級試験が実施されないことや、技能評価職種の場合も自県での試験が円滑に実施されないこと等により、受検地が他県の遠隔地になるなど、困難を来している（とび職種、そう菜製造業職種、座席シート縫製職種、電子機器組立て職種等）。
- ③ 実技試験の際使用する機械設備・器具等について、現在使われていない旧式のものとなっていること、試験材の入手が困難であること、高価であることなど、苦慮している（防水施工職種、帆布製品製造職種、プラスチック成形職種、塗装職種等）。
- ④ 受検事務関係について、各都道府県職業能力開発協会・試験実施機関の日程設定・調整が遅いこと、試験結果の連絡が遅いこと、告知なしの様式変更があることなど、苦慮している（耕種農業職種、タイル張り職種、婦人子供服製造職種、溶接職種等）。
- ⑤ 試験内容については、難易度が高すぎたり（水産加工食品製造業職種、そう菜製造業職種、機械検査職種、工業包装職種等）、試験内容と実際の作業にずれがあり（建具製作職種、水産練り製品製造職種、織布運転職種、電子機器組立て職種等）、苦慮している。技能実習生向けの試験内容及び試験制度になるよう見直しをして欲しい。

- ⑥ 過去問等の教材について、公開がないなどにより対策ができず困っている（溶接職種、宿泊職種、ゴム製品製造職種等）。
- ⑦ 受検料が材料費等も含め高いことに不満を持っている（座席シート縫製職種、電気機器組立て職種、溶接職種等）。

(2) その他制度運用に関して

業務従事や受検に必要な安全衛生技能講習を近隣地域で受講することが困難であるという声があるため、受講機会の拡大をお願いしたい。

※公開の可否：公開可

以上